

2021

区分	必修	対象	I部1年生
----	----	----	-------

科目名	現代写真論		
-----	-------	--	--

開講期	前後期	単位数	3
-----	-----	-----	---

講師名	鳥原 学		
-----	------	--	--

授業概要 到達目標	<p>写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につけません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見る。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。毎授業後に授業レポートを提出し、理解を深めます。これらを通じて、受講生の写真を「見る」能力と「撮られる」側のことを考える能力を身につけます。</p> <p>授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「現代写真論テキスト2021年度版」を使用します。</p>		
--------------	---	--	--

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
------	----	-------	------

前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂写真機店)
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」
	4		ポートレート「写真の社会的役割」
	5		ポートレート「理想と現実」
	6		スナップショット「手軽な写真」
	7		スナップショット「”決定的瞬間”以降」
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」
	9		報道とドキュメント 1「記録と宣伝」
	10		報道とドキュメント 2「印刷メディアとジャーナリズム」
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)
	12		報道とドキュメント 3「フォトジャーナリストの主体化」
	13		広告写真 1「消費社会の原動力」
	14		広告写真 2「産業化と社会へのメッセージ」
	15		広告写真 3「音楽産業の拡大と写真の影響」

後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」
	3		写真展観覧
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」」
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐる」
	13		ワークショップ(プリントスタディ)
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」
	15		自然と写真②「本能観察と文化人類学的視占」

評価方法	授業アンケートの質と期末のレポート課題。出席回数は厳守。 注意：アンケートや課題に不正（webからのコピペ、他人が書く）が発覚した場合、出席回数の如何にかかわらず落第とします。
------	--

テキスト 参考書	『現代写真論テキスト2021年度版』。日本写真企画のホームページより購入のこと。
-------------	--

講義の特徴 教員紹介	視覚教材を使用しながら、様々な作家を紹介する講義形式を基本とするが、学生との対話なども取り入れる。また授業ごとに学生にはレポートを記入してもらい、担当教員は1993年から写真弘社にある写真ギャラリーアート・グラフ運営担当し、様々な展覧会を企画した。1998年からフリーになり、現在は写真研究者、写真評論家として様々な雑誌などに寄稿し、また写真関連の書籍も出版している。写真表現や写真家に関する豊富な知識に基づいて、写真家やカメラマンとして必要な写真をみる能力を身につけるための授業を展開する。
---------------	--

2021

区分

必修

対象

I部1年

科目名	スタジオ演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	市川 森一		
授業概要 到達目標	スタジオの基本的な技術と、光のコントロールについて学びます。 スタジオに苦手意識をもたずに楽しんで取り組めるようになるのが目標です。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業の概要	概略説明
	2	実習	機材に触れてみる
	3	実習	連結撮影
	4	実習	光の方向性
	5	実習	光の方向性
	6	実習	フラッドとスポット
	7	実習	フラッドとスポット
	8	実習	ディフューザー
	9	実習	ディフューザー
	10	実習	角版写真
	11	実習	角版写真
	12	実習	角版写真
	13	実習	切り抜き写真
	14	実習	切り抜き写真
	15	実習	切り抜き写真
後期	1	実習	レンズについて
	2	実習	メインライトとハイライト
	3	実習	切抜き
	4	実習	切抜き
	5	実習	切抜き
	6	実習	切抜き
	7	実習	切抜き
	8	実習	切抜き
	9	実習	切抜き
	10	実習	レタッチ
	11	実習	角版写真
	12	実習	角版写真
	13	実習	角版写真
	14	実習	角版写真
	15	実習	角版写真
評価方法	出席状況、提出課題、授業態度等		
テキスト 参考書			
講義の特徴 教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)VDA(アマナグループ)に所属し、独立し、フリーランスのフォトグラファーとして、主に広告写真の分野で活躍中。広告写真やライティング、オリジナリティーのある写真がとれるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。		

2021

区分

必修

対象

1部3年制2年
総合写真研究ゼミ・FWゼミ

科目名	スタジオライティング			
開講期	前後期	単位数	3	
講師名	市川森一			
授業概要	前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。1年生でやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。			
到達目標	後期は、人物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないような君たちオリジナルの表現を見つけることが目標です。			
授業計画	回数	主題・目的	授業予定	
前期	1	授業の概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方	
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。	
	3			
	4			
	5			
	6		切り抜き	
	7			
	8			
	9		合成前提の撮影について photoshop の使い方も含めて、合成のやり方を理解する	
	10			
	11			
	12			
	13			
	14		まとめ	前期内容の復習
	15		まとめ	前期内容の復習
後期	1	模写	プロの写真を真似る 各自がいいと思った写真を参考にして、同じライティングを再現する 被写体は人物の予定	
	2			
	3			
	4	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる	
	5			
	6			
	7	写真以外を参考	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる	
	8			
	9			
	10	色彩から考える	色の観点から、画作りについて考える	
	11			
	12	場所を活かす	スタジオ以外の場所で、場を活かしたライティングを考える	
	13			
	14			
	15	動きを考える	時間の観点から、写真表現の可能性を考える	
評価方法	出席状況、課題、授業態度等			
テキスト				
参考書				
講義の特徴 教員紹介	実際にスタジオにてライティングしながらの実習授業を基本とする。担当教員は大手広告制作会社(株)VDA(アマナグループ)に所属し、独立し、フリーランスのフォトグラファーとして、主に広告写真の分野で活躍中。広告写真やライティング、オリジナリティーのある写真がとれるフォトグラファー育成に向けた授業を展開する。			

2021

区分

必修

対象

I部3年制3年

科目名	画像処理Ⅱ		
開講期	前後期		単位数 3
講師名	羽立 孝		
授業概要 到達目標	<p>”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。</p> <p>個々の目的のイメージにより、その必要充分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。</p> <p>それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge
	2	LightRoom	Lightroomの使い方
	3	CaptureOne	CaptureOneの使い方(テザー撮影)
	4	Photoshop	レイターの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要
	6	パス①	パスの概要
	7	パス②	パスの選択、使い方
	8	選択範囲	色
	9	選択範囲	輝度
	10	ブラシ	ブラシ概要
	11	トーンカーブ	覆い焼き・焼き込み
	12	トーンカーブ	濃度
	13	トーンカーブ	カラー
	14	テスト	前期内容
	15	回答	
後期	1	CaptureOne	CaptureOne現像
	2	スマートオブジェクト	概要
	3	スマートオブジェクト	変形
	4	スマートオブジェクト	フィルター
	5	スマートオブジェクト	応用
	6	描画モード	概要・スクリーン
	7	描画モード	乗算
	8	描画モード	乗算
	9	描画モード	オーバーレイ
	10	描画モード	オーバーレイ
	11	描画モード	カラー
	12	背景	背景処理
	13	レイアウト作成	Photoshop・Illustrator
	14	テスト	後期内容
	15	回答	
評価方法	出席および授業態度		
テキスト 参考書	世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書		
講義の特徴 教員紹介	<p>パソコン室での実習授業を基本とする。担当教員はフリーランスのレタッチャーとしてまたフォトグラファーとして、活躍しています。数々のフォトグラファーの撮影したファッション写真や広告写真をレタッチ（画像処理）し、最終的な写真に仕上げています。これまでつちかかってきた高度なレタッチ技術や現場での経験を活かし、レタッチ技術の応用を学ぶ授業を展開しています。</p>		

2021

区分

必修

対象

I部3年制1年
I部3年制2年生PSBゼミ

科目名	フォトプレゼンテーション演習 I / プレゼンテーション		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	フジモリ メグミ		
授業概要 到達目標	<p>この授業では、フォトプレゼンテーション（写真の編集や展示などの作品を見せる方法等）についての、基礎的な知識を身につけることを目指します。</p> <p>前期はたくさんの展示会を見学し、展示の方法を学びます。展示方法の違いによって、作品の印象が変わっていくことを理解できるようにしましょう。</p> <p>後期は作品作り・ポートフォリオ制作をあわせて行なっていきます。8階ウォールギャラリーでの展示などを通して、意図を正確に伝えることが出来る効果的なプレゼンテーションを学びましょう。</p>		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	対面授業	ガイダンス/授業説明/自己紹介
	2	課題	GW期間中の課題 ギャラリー見学について 提出日：5月9日までにチームスに！
	3	実習と制作	フォトスクラップの制作 持ち物→ノート・雑誌や新聞（スクラップに使用できそうな素材）・のり・はさみ/カッター
	4	課題の発表	フォトスクラップ発表！ カメラをオンにしてそれぞれの作品を発表していきます
	5	様々な展示方法を学ぶ	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ① マット額装編
	6	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ② アクリル加工編
	7	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ③ 直張編
	8	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ④ つるし・床置き編
	9	↓	対象の展示会を見学し、展示方法を学ぶ⑤ その他編
	10	様式研究①	対象の展示会の見学に行き、その作品を模した作品を制作する① ※画面共有にて提出
	11	対面授業	レクチャー→紙の種類によって見え方の変わるプリント
	12	様式研究②	対象の展示会の見学に行き、その作品を模した作品を制作する②
	13	様式研究③	対象の展示会の見学に行き、その作品を模した作品を制作する③
	14	様式研究④	対象の展示会の見学に行き、その作品を模した作品を制作する④
	15	まとめ	まとめ/夏休みの課題説明 提出日：8月22日までにチームスに！
後期	1	発表	夏休みの課題の発表 アウトプットを想定した作品の制作
	2	↓	↓
	3	対面授業	レクチャー マットカッターの使い方
	4	↓	額装の方法
	5	↓	水張りの方法
	6	作品制作	テーマに沿った作品制作
	7	↓	テーマに沿った作品制作
	8	↓	テーマに沿った作品制作
	9	↓	作品のポートフォリオ制作①(リアル～Web版)
	10	↓	作品のポートフォリオ制作②
	11	↓	作品のポートフォリオ制作③
	12	↓	作品のポートフォリオ制作④
	13	対面授業	プリントのチェック
	14	展示準備	ウォールギャラリーでの展示に向けての準備
	15	展示準備	↓
評価方法	出席率/授業態度/写真への愛情や熱意をもとに、総合的に評価します。		
テキスト 参考書	必要な物は事前に連絡します。忘れ物はしないようにしましょう		
講義の特徴 教員紹介	担当教員は写真家として、数多くの作品を発表しており、写真集の発刊や写真展の開催をコンスタントに続けている。また2020年度にはエプソン(EPSON)の年度賞を受賞。これらの経験をもとに、撮影してきた作品の講評と、実際に提出するレポートの評価、手を動かして作業をしながら写真を人に見せる工程を身につけることが中心の授業を展開する。		